

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 横川東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 112人

② 算数 112人

5 留意事項

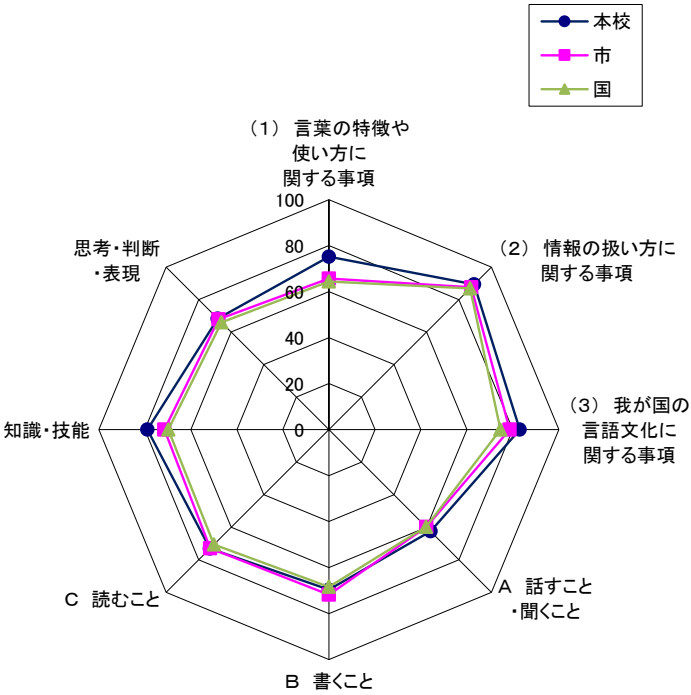
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	75.2	65.7	64.4
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	89.3	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	83.0	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	62.5	59.9	59.8
	B 書くこと	69.6	71.8	68.4
	C 読むこと	73.2	72.9	70.7
観点	知識・技能	78.9	71.5	69.8
	思考・判断・表現	68.3	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

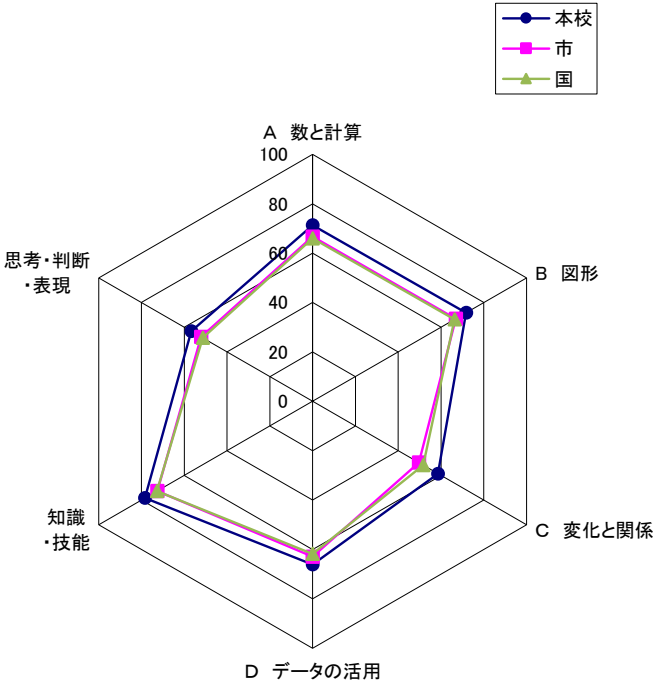
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、国の平均正答率を上回っている。 ○「学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う」の設問に関しては、国の平均正答率を10ポイント以上上回っている。漢字の反復練習に継続して取り組んだ成果と考えられる。 ○「適切な主語」を選択する設問では、国の平均正答率を約10ポイント上回っている。	・今後も基礎・基本の定着を図るため、継続して漢字の読み書きなどの反復練習に取り組んでいく。一方、無回答の児童もいるため、個に応じた指導の充実に努めていく。 ・主語や述語だけでなく、修飾語などを活用した問題に取り組んだり、短文を作る学習を取り入れたりすることで、文章力の向上を図るようにする。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、国の平均正答率を上回っている。 ○「メモの書き表し方を説明したものを適切に選択する」の設問に関しては、国の平均正答率を約2ポイント上回っている。複数の情報を読み取ったり、語句を正しく理解したりすることができていると考えられる。	・多くの文章問題に取り組む中で、読み取ったことを分かりやすくまとめて書く活動を取り入れ、相手に情報を正確に伝えたり、聞き取った情報を正確に理解したりする力を育てていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、国の平均正答率を上回っている。 ○「読書の記録から読み取れることを選択する」設問では、国の平均正答率を約8ポイント上回っている。 ●平均正答率は、80%を超えているが、選択式の設問では、無回答の児童も約5%おり、読書活動の個人差も関わっていると考えられる。	・日頃から本に親しむ習慣を取り入れ、読書のよさを感じることができるようになる。また、読む活動だけでなく、感想を伝え合ったり、感じたことや考えたことを伝え合ったりする活動を取り入れることで、読書への関心を高めていくよう努める。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、国の平均正答率を上回っている。 ○「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する」設問では、国の平均正答率を8.5ポイント上回っている。	・今後も、授業において話し合い活動を積極的に取り入れ、目的に応じた意見交換ができるように指導する。 ・課題に対する自分なりの意見をもたせるとともに、伝えたいことが明確に相手に伝わるように、言葉の選び方や文脈、文の構成の仕方を考えさせる力を育てていく。
B 書くこと	平均正答率は、国の平均正答率をやや上回っている。 ●「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」設問では、国の平均正答率を約5ポイント下回っている。	・事実と感想、意見などを区別しながら文章全体の構成を捉える活動をより多く取り入れていく。また、自分の考えを書く際には、目的や意図に応じて事実と感想、意見を区別して書くよう支援していく。 ・無回答の児童もいるため、書くことの抵抗感を軽減するために、限られた文字数で作文を書く活動を取り入れていく。
C 読むこと	平均正答率は、国の平均正答率を上回っている。 ●「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする」設問では、平均正答率は国の平均正答率を約5ポイント上回っているが、無回答の児童が10%以上いる。	・心情が描写されているところに着目したり、物語の構成を考えたりしながら読むことで、人物像や物語の全体像を捉えることができるよう支援していく。また、自分の考えを伝え合う活動を取り入れることで、考えを広げられるようにする。

宇都宮市立横川東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	71.3	66.7	66.0
	B 図形	71.7	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	58.6	49.6	51.7
	D データの活用	66.1	62.9	61.8
観点	知識・技能	78.4	72.6	72.8
	思考・判断・表現	56.8	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、国の平均正答率を上回っている。 ○基本的な計算問題は正答率が高く、概ね定着していると考えられる。 ●計算に関して、既習事項を活用して計算の仕方を考え、表現することに課題がある。	・基本的な計算を速く正確に解くことができるように、朝の学習の時間を活用したり、引き続き習熟度別学習を取り入れたりし、定着を図る。 ・計算のきまりについて、問題を繰り返し復習することで定着を図る。
B 図形	平均正答率は、国の平均正答率を上回っている。 ○直方体の見取り図や直径、円周の長さ、円周率の関係について、概ね理解している。 ●「直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く」設問では平均正答率が47.3%と低いとともに、無解答の児童が約15%いるということから、体積を求めるために、必要な情報を自ら選びだすことに課題がある。	・体積を求める際に、面積の公式で求めていたり、円周率を用いて求めていたりして誤答となっているケースも多く見られることから、なぜそのような公式になるのかをしっかりと押さえ、体積の公式とその意味について復習する機会を設け、理解を図る。
C 変化と関係	平均正答率は、国の平均正答率を上回っている。 ○速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる。 ●「道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く」設問では、平均正答率が37.5%と低く、速さなどの単位量あたりの大きさの意味や表し方とともに、記述することについても課題がある。	・答えをどのようにして求めたか、根拠などを自分の言葉で表現する機会を意図的に設ける。記述の内容が不足していて誤答となっているケースも多く見られることから、問題解決のために必要な情報がしっかりと記述できているか確認する時間を確保しながら指導する。 ・単位量あたりの学習については、朝の学習の時間に計算ドリルやAIドリルなどを用いて、繰り返し復習し、定着できる朝の活動の時間などに復習したりして定着を図る。
D データの活用	平均正答率は、国の平均正答率を上回っている。 ○円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることや二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して分類、整理することができる。 ●「折れ線グラフから開花日の月について、3月と4月の回数の違いと年代について」の設問や「示された桜の開花予想日を求める」設問では、平均正答率が約50%と低く、問題を解決するために必要な数値を用いて処理し、その結果を式に表したりすることに課題がある。	・社会科の資料なども活用しながら、グラフの読み取りの理解を深められるようにする。 ・データを読み取って捉えたことを伝え合う活動を取り入れ、必要な情報を読み取れているかを確認できるようにする。

宇都宮市立横川東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
○生活面では、「朝食を毎日食べている。」と肯定的な回答をした児童の割合は93.1%で、全国平均とほぼ同じである。また、「毎日同じくらいの時刻に寝ている。」と肯定的な回答をした割合が86.2%で全国平均を3.3ポイント上回っている。「毎日同じくらいの時刻に起きている。」と肯定的な回答をした割合も93.1%と肯定的回答率が高く、全国平均を1.5ポイント上回っている。このことから、基本的な生活習慣が身に付いている児童が多いことがうかがえる。今後も、この良好な生活習慣を維持・発展させ、学習意欲の向上や心身の健やかな成長へと繋げていくために、家庭との連携を強化し、食育や睡眠の大切さについて指導を深めていきたい。	
○学校生活に関しては、「先生は、あなたのよいところを認めてくれている。」と肯定的な回答をした割合は97.4%で全国平均を7.5ポイント上回っている。また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。」と肯定的な回答をした割合が81%で、全国平均を13.9ポイントを上回っていた。このことから、友達や先生との信頼関係が構築されていると考えられる。今後も、児童同士、そして児童と教職員間の信頼関係をさらに深めるために、個に応じた声かけや教育相談の定期的な実施など、相談しやすい雰囲気づくりを継続していきたい。	
○家庭学習では、「普段(月曜日から金曜日)、1日当たり1時間以上時間勉強している。」と回答した児童が66.3%おり、全国を11.7ポイント上回っていた。このことから、本校児童の学習意欲の高さが伺える。今後も、この高い学習意欲をさらに伸ばすために、家庭学習の習慣化を支援するとともに、一人一人の児童の学習状況に合わせたきめ細やかな指導を行っていきたい。	
○「ICT機器を活用して楽しみながら学習を進めることができる。」と肯定的な回答をした割合が93.1%で全国平均を7.1ポイント上回っていた。このことから、本校の児童はICT機器を活用した学習に対して高い関心を示していることが分かる。今後も、児童のICTリテラシーの向上を図り、より効果的な学習へと繋げていくため、ICT機器を授業に取り入れる機会を増やし、児童が主体的に学習に取り組めるような環境を整備していきたい。	
●「各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている」と肯定的な回答をした児童は77.6%で、全国平均を2ポイント下回っている。このことから、本校では、各教科で学んだ知識を生かし、新たな問題解決につなげる力の育成に努める必要があると考えられる。今後は、各教科間の関連性を意識した学習活動の実施や自分の考えを表現する機会の意図的な設定を図り、児童が各教科で学んだことを結びつけ、新たな問題に対しても自分の考えをしっかりとまとめることができるように支援していく。	
●「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」と肯定的な回答をした児童は75%で、全国平均を5.7ポイント下回っている。このことから、本校の児童は、自ら学ぶ力、特に情報収集力や問題解決力がやや不足し	

宇都宮市立横川東小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的・対話的で深い学びの授業改善	・問いをもたせたり、興味関心を高めたりする導入の工夫 ・自分の考えを書く活動の習慣化と自分の考えをもたせるための支援 ・主体的な学びにつながるICTの効果的な活用	・「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の項目での肯定的回答割合は、国と県とほぼ同じであった。 ・「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり、詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか」の項目での肯定的回答割合は、国と県を下回っていた。 ・ICTの活用に関して、効果的に活用できていると実感している児童の回答割合は、全ての項目において、国と県を上回っている。
・基礎・基本の確実な定着	・AI型学習ドリルなどICTを活用した個に応じた指導の充実 ・朝の学習(週3回15分間)の実施 ・学期ごとの漢字・計算オリンピックの実施	・国語の知識・技能分野の平均正答率は、78.9%、算数の知識・技能分野の平均正答率は、78.4%でともに国、県を上回っている。
・家庭学習の習慣化	・発達段階に応じた家庭学習の内容や分量の検討と指導 ・「家庭学習の手引き」の効果的な活用	・「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に対して、推奨している1時間以上勉強していると回答した児童は、66.3%で国、県を上回っている。また、休日1時間以上勉強していると回答した児童も65.6%で国、県を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表す問題では、国や県の平均正答率よりも低いものがあつた。	・自分の考えを書く活動のさらなる充実	自分の考えを書く活動の習慣化と自分の考えをもたせるための支援に取り組むようにする。 また、ペア学習やグループ学習、全体の練りあい、聴き合うこと等の効果的な場の設定の工夫をするようにする。